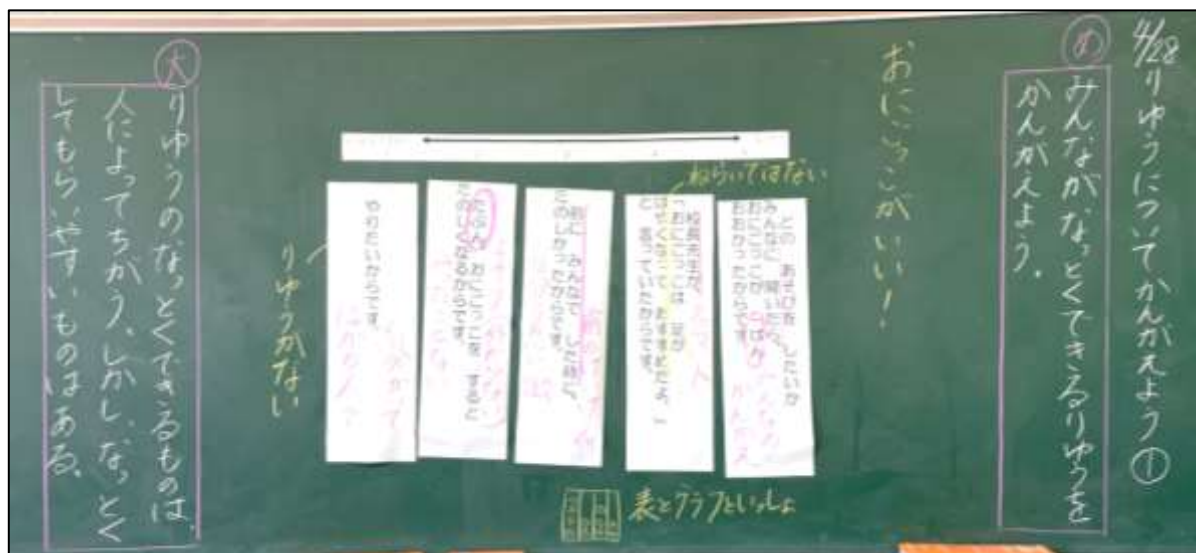


国語科 当日資料

20220721 白井

はじめに

本資料は、2年生における今年度の授業実践をまとめたものです。本日の『お手紙』授業公開に至るまでの日々の道程が、一部分でも伝われば幸いです。



上の板書は、4月の授業参観のものです。この時は、「理由の種類（無根拠、推測、経験則、伝聞引用、調査結果）」を「順序立てる」ことで、理由の説得力の有無について考える活動を仕組みました。板書にある5枚の紙を児童に配布し、納得できる順に並ばせ、その順序と並べた理由について交流させました。その後、黒板の前で拡大用紙を並び替えながら、その理由を共有しました。

2年生ではありますが、「やりたいから（無根拠）」や「たぶん～（推測）」の2つの順序はほぼ全員が最後に並べているなど、日頃の経験の中から説得力の有無を判断し、表現していました。残り3つの並びは様々でしたが、共有の時間を通して板書左（大事なこと）にあるような意見に収束していきました。

さて、こういう単元づくり（特に特設単元）を仕組みるときには「児童の実態（課題）」を掴み、そこを的確に指導できるものでなければならないと考えます。さらに、その活動が児童にとって必要である（やりたいと思える）ことも大切だと考えます。

今回は、この授業の前に行った学級活動の話合いがきっかけでした。学級活動での話合いの様子を撮影しておき、



理由を言っている部分だけを編集した動画（右図）を、本時（授業参観）の導入で見せました。ひとしきり盛り上がったところで、「誰の理由が一番納得した？」と尋ねると、もう1回見せて！とさらに盛り上がります。2度目の鑑賞を終えると、誰だどうだと意見が飛び交います。そこで「どうして〇〇さんの理由が、多くの人に納得してもらえたのだろうか？」と問い返し、本時のめあてに進んで行きました。

この授業参観に限らず、私は日々の国語科授業づくり（単元づくり）をする際、児童の実態と指導内容を関連付けて考え、そこから見出した言語活動にいかに出合わせ必要感をもたせるかを大事にしています。なかなか本日のフェスタだけでは伝わりにくい部分かもしれませんが、そういった授業の裏を感じ取っていただけたらと思います。

1 ふきのとう（読むこと）

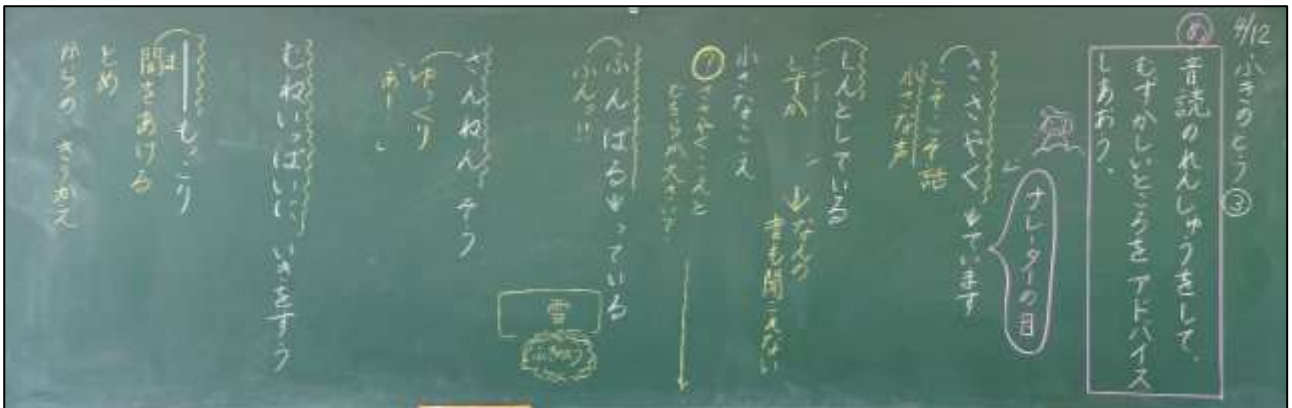
言語活動：音読発表会をして、保護者に聞かせる（ゴール）

指導事項：登場人物を掴み、その場の様子を想像できる（言葉の力）

学び方：友達と協力してアドバイスをし合う（学びに向かう力・人間性等）

物語文の1作品目は、音読発表会を行いました。発表の様子を動画に撮り、One Drive 上に保存し、QR コードを用いてお便り（右図）で見てもらうことにしました。

この単元では、役割決め（会話文の主体が誰かを掴む）や動作化（場面の様子、語彙の確認）を交えながら、音読劇に向けた練習を班ごとに行いました。その時々で担任が入り、問い返しながら気付かせたい語彙に触れ、板書に集めていきました。



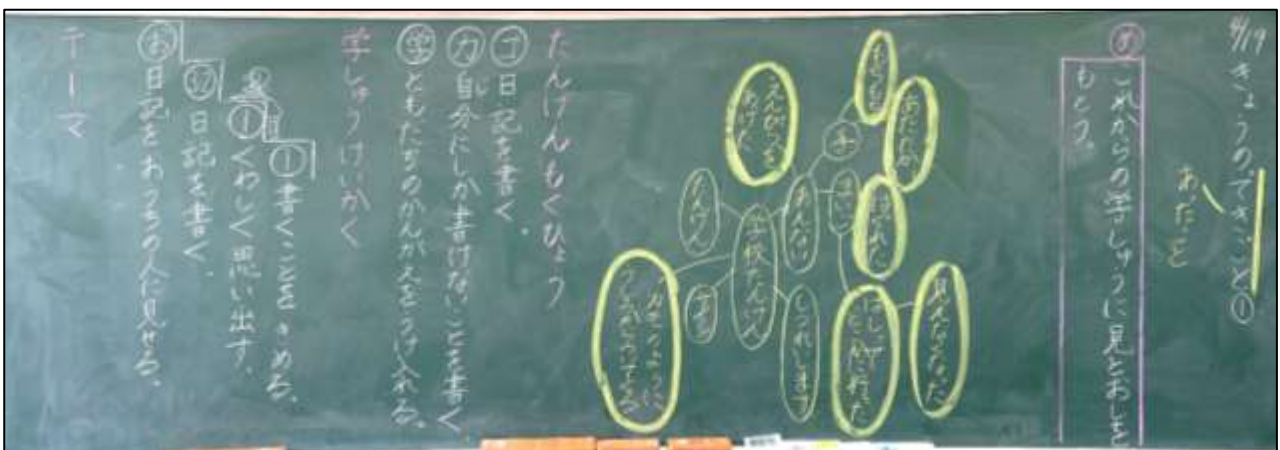
全体で共有する際は、実際に動作化を交えて音読させ、その様子から想像を膨らませていきました。

2 きょうのできごと（書くこと）

言語活動：日記を書く（ゴール）

指導事項：自分にしか書けないことを（思い出して）書く（言葉の力）

学び方：友達の考え（感じたこと）を受け入れる（学びに向かう力・人間性等）



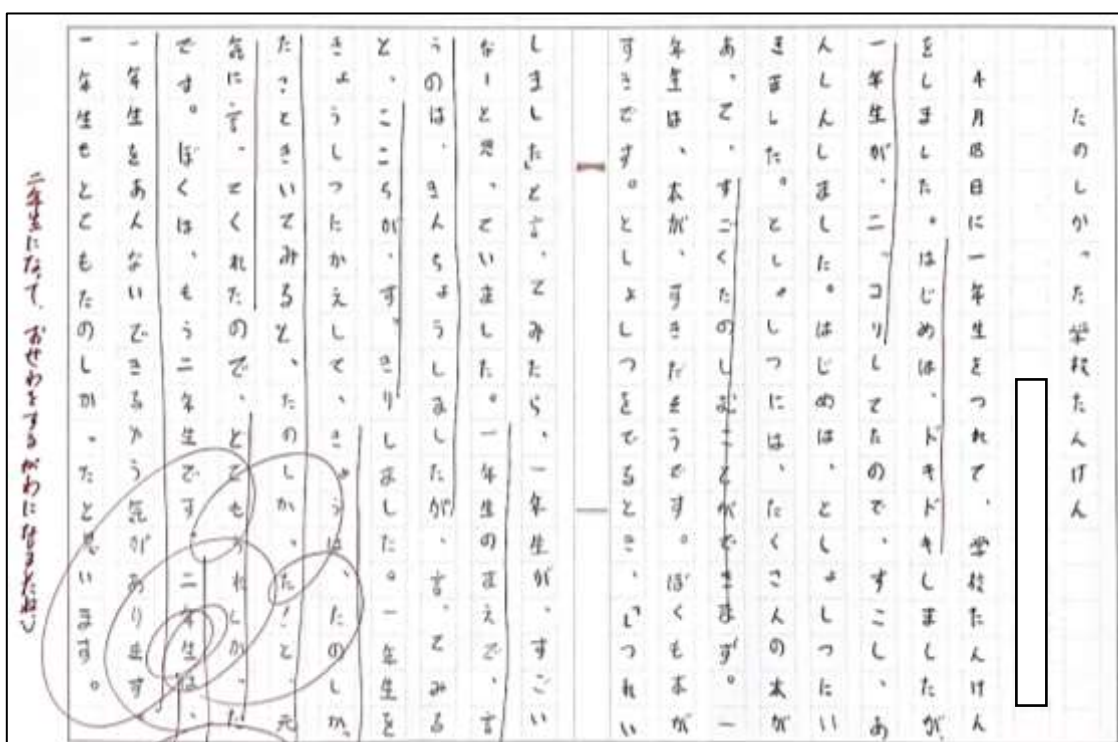
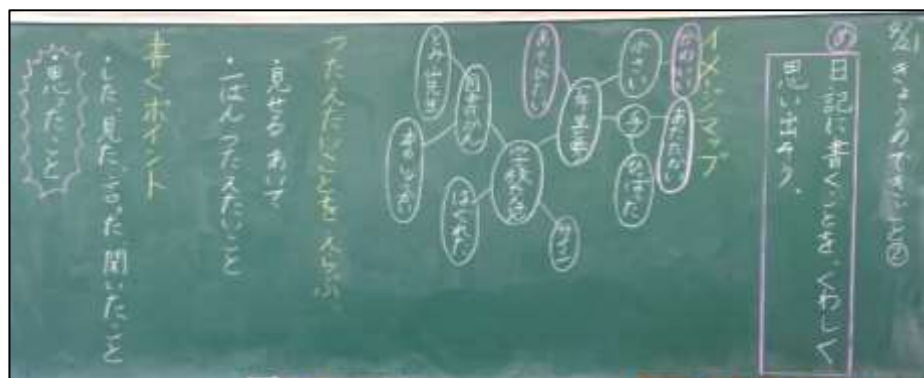
書くこと領域の1題材目は「日記」でした。2年生になり、連絡帳に毎日短い日記を書いています。そんな日々の日記を取り上げて紹介し、「上手に日記を書きたい」という目標をもって単元に入りました。この単元では、学び方として他者の考えを認めて受け入れる（否定しない）ことを設定しました。これは、日頃の様子を見ている中で、友達が感じたことを「おかしい」と否定的に捉える発言が見受け

られたことに起因します。今回の「日記」という言語活動の中で、「同じ出来事に対しても感じ方は人それぞれ」ということに気付いてほしいという願いがありました。

前日に行った1年生との学校探検のことを、イメージマップを用いて思い出していき、ところどころ出て来る「その子ならではの出来事や思い」を価値付けしつつ、単元目標に迫りました。

実際に書く時も、一人一人が板書のようにその時のことを思い出してノートに書いていきました（思ったこと、感じたことは赤鉛筆）。

実際に書き終えた作文の例が以下のものです。



3 ともだちをさがそう（話すこと・聞くこと）

言語活動：迷子探しゲームをする（ゴール）

指導事項：大事なことを聴いてメモする（言葉の力）

学び方：（ゲームをして）メモの仕方をふり返る（学びに向かう力・人間性等）

この単元では、教科書の挿絵の他に、『ウォーリーを探せ』を教材化して使いました。1年生の時にメモの経験が少なかったこともあり、3ヒントクイズの要領で迷子アナウンスを行い、その人物を探す活動を仕組みました。

当然、楽しい活動の中に国語科の学びがあることが大切です。そのため、学び方を上記のように設定して伝えました。



4 たんぼぼのちえ（読むこと）

言語活動：プレゼンターになり、たんぼぼ紹介（ゴール）

指導事項：説明を順序よく読み取る（言葉の力）

学び方：班の人と協力する（学びに向かう力・人間性等）



説明文の1作品目は、プレゼンテーションを行いました。やることは紙芝居に近いのですが、GIGA スクール構想の端末に早くから慣れさせたかったため、①たんぼぼの写真を撮る（紙芝居に書く代わり）、②写真を並び替える（紙芝居の順序を考える代わり）という2種類の機械操作を取り入れました。

導入では、「たんぼぼ」からイメージを広げていき、「知恵とは何だろう」という題名読みをしました。その後、初発の感想を書き、黒板に書きに来たものを種類別（知恵別）に色分けしていきました。

2時間目は、形式段落について指導し、全10段落に分かれることを、電子黒板を用いながら確認しました。また、「それぞれの段落の**主役（主語のこと）は何だろう？**」と問いかけ、板書のようにキーワードを抜き出していきました。すると、「同じようなものがある」や「1と10段落がたんぼぼで挟んでいる」という児童の気付きが出てきたので、「初め・中・終わり」の概念も教えました。



3時間目は、挿絵と本文を渡し、文章だけを読んで挿絵を並べる活動を仕組みました。児童は、たんぼぼの部位に注目しながら自分の考えを説明していきました。この際、綿毛が落下傘のようになっていることについては挿絵がないことに気付き、プレゼンテーションをする時には写真を撮影しようと



意気込んでいました。

4時間目は、「終わり」部分の「このように」という接続語から、「中」でたんぼぼの知恵がどのように説明されていたかを、クラゲチャートに整理してまとめました。

5時間目からは、実際に外に出て写真を撮り、それまでの学習を基に並び替えて（説明に使う写真だけを厳選して保存し）、教科書本文を基に知恵を説明する練習を行いました（この辺りはGIGAスクール構想の端末の使い方指導も並行して行っています）。そして8時間目にプレゼンテーション大会を行いました。



5 同じ部分をもつ漢字（ことば）

教科書上の漢字を扱った後、同じ部分（部首）をもつ漢字をたくさん集めるといった活動を行いました。

6 嬉しい言葉（ことば）

最近言われて嬉しかった言葉を問い、頑張ったこと、寂しかった時のこと、困った時のこと等で整理して板書に表しました。その後、以前児童が書いていた絵日記をモデルとして使用し、かぎかつこの使用方法を確認しました。最後は200字詰め原稿用紙を用いて作文させています。



7 スイミー（読むこと）

言語活動：ペープサートでアニメを作る（ゴール）

指導事項：物語のあらすじを捉える（言葉の力）

学び方：計画を立てて、間に合うように進める（学びに向かう力・人間性等）

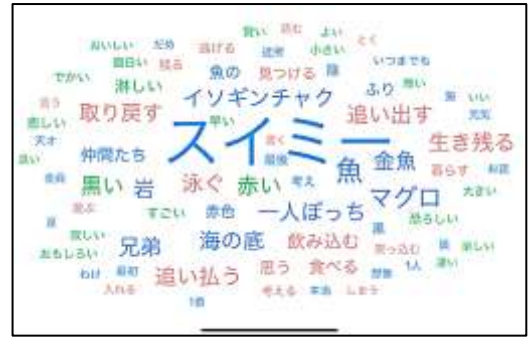
スイミーには、多彩な比喻表現や倒置法を用いた表現があります。また、スイミーの心情変化が直接的に描かれています。このような教材の価値に迫るべく、言語活動をペープサートにしました。



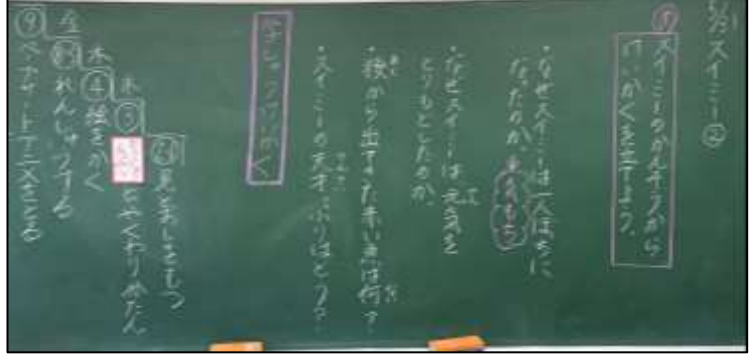
1時間目は、『スイミー』という題名を聞き、どんな話を思い浮かべる

か自由に出し合う、題名読みを行いました。既に文章を読んでいた児童もいましたが、まだ読んだことがない児童から『ファインディング・ニモ』のような話が出るなど、期待感が高まりました。この時書いた初発の感想を、放課後に読み上げる形でテキストマイニングし、クラスに共通する、或いは特徴的な気づきを可視化しました。

2時間目は、テキストマイニングした画像を見せ、どんな感想や疑問が多かったのかを紹介しました。そこから単元を通して解決したい課題を共有し、学習計画作りを行いました。この時生まれた課題は、この後の授業の各所で解決していきました。



3時間目は、ペープサートを作るにあたって登場人物を確認しました。この時、「中心人物」と「場面」という学習用語をおさえています。また、それぞれの生き物については、「～みたい」「～のような」といった直喩と、それがない隠喩の両方があり、どんな色や形か想像しながら絵を描くことを確認しました。



4時間目は、ペープサート作りをしています。「からす貝よりも真っ黒」「顔を見る頃には尻尾を忘れていたほど長い」といった表現に着目させながら人形を描かせていきました。『たんぼぼの知恵』で役割分担した時のことを思い出させ、分担しながら取り組む素地を作りました。1時間では終わらなかった分は、休み時間や自宅で完成させています。本単元が「間に合うように進める」であることを確認



させたからか、全班が5時間目にはペープサートを完成させていました。

5時間目からは練習に入っています。「地の文」という学習用語を確認し、ナレーター役とそれ以外を分担させ、まずは一度通して練習させ、難しかったところがどこか集めました。この際、2時間目に出てきた課題に触れつつ、心情理解と表現（音読）、言動の主体や順序理解（動作）の2種類で整理しています。



6～8時間目は、班ごとの練習と難しい部分の全体共有として進めました。この際、動作については正しい理解ができていましたが、音読表現にはかなり課題がありました。そこで、声の大小、高低、早



遅、間の4つの視点で声と心情を結び付けられることを確認しました。これ以降、「この時は○な気持ちだから、もっと△な声になるよ」といったアドバイスが増えました。なかなか表現自体は上達しませんでしたでしたが、動作化を通して心情を想像するという目的は達成できたと思います。

9時間目はペープサートの発表本番でした。かなり意欲が高まっており、昼休みに自主練をする姿が見られるなど、意気揚々と臨んだ本番でした。本番終了後は、いつものように単元目標に関するふり返りを行っています。なお、黒板の前でペープサートを演じさせ、絵本の挿絵にクロマキー合成した動画を児童達に見せました。普通のペープサートでも十分でしたが、背景が変わった中で自分達のペープサートが流れる映像は非常に好評で、またしたいとの声が上がっていました（動画編集はVLL0というアプリを使っています）。



8 観察名人になろう（書くこと）

言語活動：観察日記を書く（ゴール）

指導事項：観察したことを詳しく書く（言葉の力）

学び方：友達の良いところを真似する

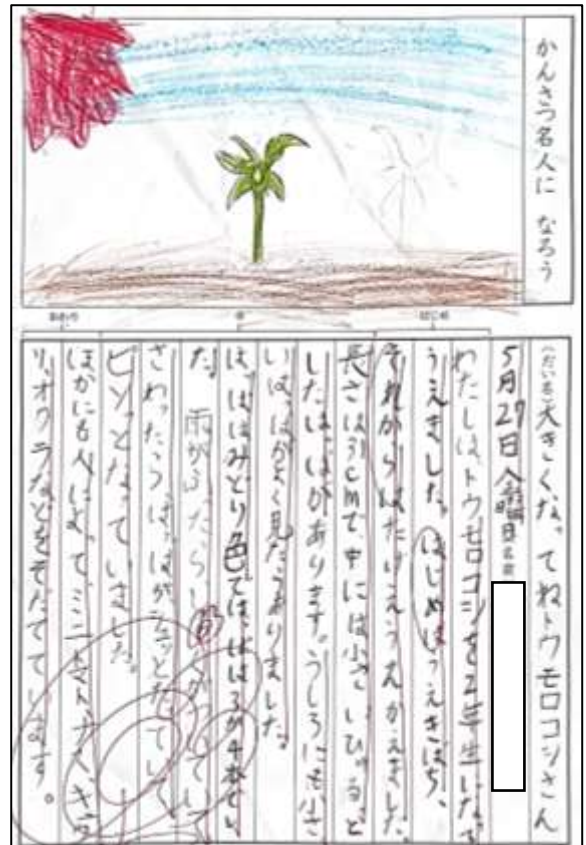
（学びに向かう力・人間性等）

この単元は、『スイミー』以前から週に1回のペースで取り組んできました。生活科との関わりも強いため、概要のみ紹介します。

本単元は、児童の作文を学習材化して活用しました。毎時間最初に、前回の作文の中から1枚を紹介し、「真似したい一文」を問いました。選ぶ作文は、五感、オノマトペ、比喩表現がある等、良さをしぼって気付けるものを選んでいました。

児童が見つけた良さは模造紙に書き込んでいき、この単元に限らず様々な活動で活用できるような掲示物作りをしていきました。

最後は観察日記を本にまとめ、表紙をつけて持ち帰らせました。



9 メモをとるとき（話すこと・聞くこと）&こんなもの、見つけたよ（書くこと）

言語活動：町探検で見つけたものを紹介文に書く（ゴール）

指導事項：メモをもとに組み立てを考える（言葉の力）

学び方：友達の良いところを真似する（学びに向かう力・人間性等）

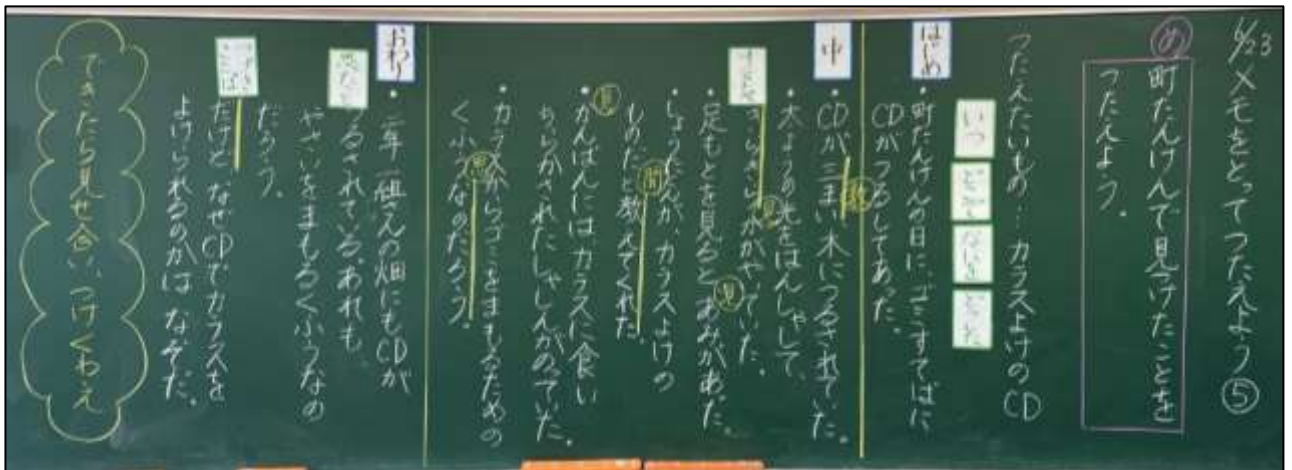
教科書上の2単元をセットにして実施しました。メモの取り方を学び、それを用いて町探検で見つけてきたものを紹介する文章を書くという流れです。

1時間目は、『ともだちをさがそう』でメモを取ったときのことを思い出し、メモの目的や特徴を整理しました。その後、生活科で町探検に出かけることを確認し、そこで見たものをメモに取り、後から紹介文に書くことを伝えました。



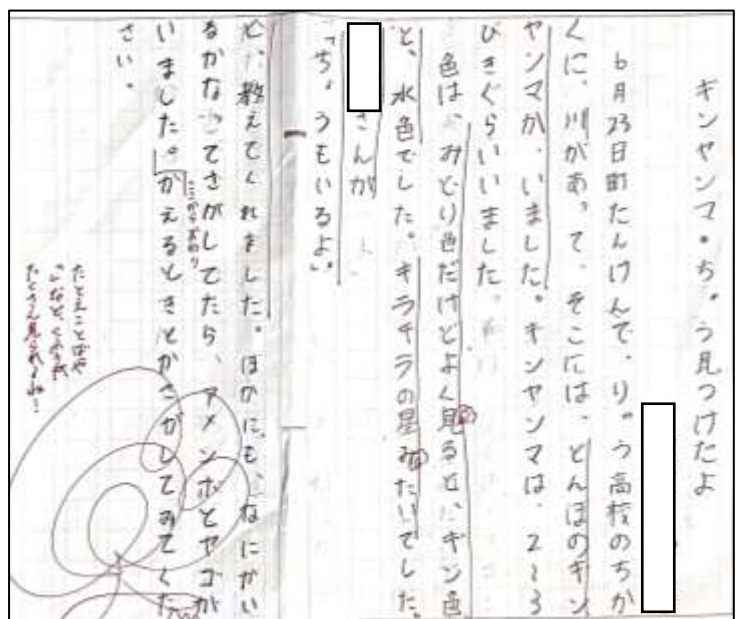
単元目標の「組み立て」については、『スイミー』や『観察日記を書こう』などで「初め・中・終わり」を学んだこと、観察したことの中から何を書くか考えたことを取り上げ、同じように考えることを伝えました。

2・3時間目は、メモを取る練習をしています。校内を回って見つけたものをメモに取り、そのメモ自体を交流しました。どのような書き方が早く、分かりやすく書けるかで話し合いました。その後、メモをもとに見つけたものを紹介しあいました。



4時間目に町探検に出かけ、5時間目はメモをもとに組み立てを考えました。まずはメモを基に見つけたものをノートに書き出し、どの順番で何を書くか考えました。担任も一緒に町探検に出かけていたため、黒板を使って例を示しながら進めました。

最後は作文を交流し、付箋に感想を書いて伝え合いました。この後、生活科として2回目の町探検に出かけており、この交流を通して気になったところを再度見て回っています。



10 あったらしいな、こんなもの（話すこと・聞くこと）

言語活動：夢の道具紹介をする（ゴール）

指導事項：質問をして、相手の考えを引き出す（言葉の力）

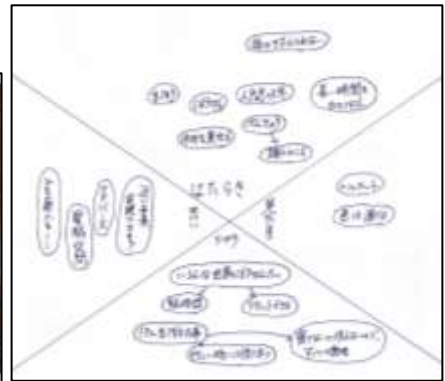
学び方：友達とどんどん質問しあう

（学びに向かう力・人間性等）



1時間目は、導入で「欲しいドラえものの道具は何か？」という発問をしました。タケコプター！どこでもドア！と答える児童に質問し、「道具の働き」「道具の特徴」「選んだ理由」を整理して板書しました。その後、オリジナルの道具を絵に描き、その紹介をするという言語活動を伝え、「道具の働き」「道具の特徴」「選んだ理由」という質問や説明の視点を確認しました。

2・3時間目は、自分の道具を絵に描きました。今回は国語科の授業内で描いていますが、図画工作科と兼ねて行うこともできると思います。



4・5時間目は、担任のモデルを用いた説明を行いました。原稿を用意するわけではなくメモをもとに話すこと、裏面にXチャートを用いたメモを書いてよいことを説明しました。Xチャートは、上記の「働き・特徴・理由」の他に、児童から挙げた「感想や思い」も書いています。友達と互いに絵を見せ合い、質問し合う中でメモを増やしていきました。



6(7)時間目は発表会でした。一人一人前で絵を見せながら発表しました(全員の発表が終わるまでに2時間かかりました)。

11 お気に入りの本を紹介しよう

言語活動：お気に入りの本を紹介する(ゴール)

指導事項：いろいろな本を読み、面白さを探す(言葉の力)

学び方：本を集中して読む(学びに向かう力・人間性等)

夏休み前の読み広げ単元です。夏休み直前まで『お手紙』と並行して授業を行っているため、概要のみを紹介します。

今回は、図書の時間などを用いて読み広げを行い、おすすめの本を紹介するという流れを組みました。紹介する際は、話を聞いてその本を読みたくなった人を選ぶビブリオバトル方式を取りました。

